

暖かくて過ごしやすい季節になりましたが、花粉症の方はまだまだ我慢の日々ですね(^_^;)

私もかれこれ花粉症歴二十年なのでとてもつらいです…(>_<)

今回は猫ちゃんの難治性口内炎ついてです。



猫の難治性口内炎とは？

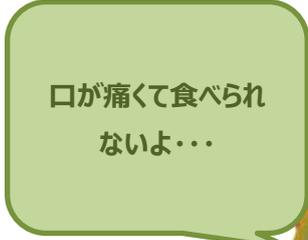


歯肉や口の中の粘膜部分で炎症や潰瘍を起こしてしまう病気です。部分的に発症することもあります。広範囲に口内炎が出来ることもあります。激しい痛みを伴い、重度になると歯肉や粘膜から出血することもあります。

難治性口内炎の症状

口内炎を発症していると次のような症状が見られることがあります。

- よだれが多い
- 口臭が強くなる
- 口から出血する
- 毛艶が悪くなる
- 口を痛そうにする



また、口が痛いために奇声を上げたり、食べるのが嫌になり食欲不振、お水さえも飲めなくなることがあります。その状態が続くと体重の減少や脱水症状を引き起こします。

難治性口内炎の原因

難治性口内炎は1歳に満たない若い猫ちゃんでも発症することがあります。はっきりとした原因は解明されていませんが、次のようなことが原因になるのではないかとされています。

① 感染症

FIV(猫エイズ感染症)、FELV(猫白血病)などは免疫力を低下させることがあり、口内炎を発症しやすいと言われています。

② 内臓疾患

腎不全による血中の尿毒素の上昇、糖尿病による血管炎などが原因ではないかと言われています。

難治性口内炎の治療

はっきりとした口内炎の原因が未だ解明されていないのと同じく、治療法も確立されていません。そのため完治は難しいとされています。まず、内臓疾患の内、尿毒素が高い場合は尿毒素を下げるため点滴治療を行います。糖尿病の場合は細菌感染を起こしやすいため抗菌剤を投与することもあります。

上記の原因でない(原因不明)場合、基本的に内科療法として抗菌剤、ステロイド剤の注射をします。ただ一時的な改善は得られますが、数日~数ヶ月で再発することがほとんどです。様子を見ながら上手に付き合っていく必要があります。

また、感染症についてはワクチンで予防できるものもあるのでワクチン接種をしてあげることや、病気を持っている外の猫ちゃんとの接触をさせないように完全室内飼育にしてあげるのもそういった予防につながると思います。



調子を見ながら上手に付き合っていこうね



倉重先生のコラム

猫の口内炎は日頃の診療で頻繁に遭遇する疾患ですが、完治は非常に難しく、再発の多い疾患でもあります。特に猫エイズウイルスは難治性口内炎の要因となることがしばしばあります。治療にはステロイドを使用することが多いのですが、使いすぎると、糖尿病、易感染性、皮膚の菲薄化などの副作用が現れることがあります。ステロイド自体は口内炎に対して非常に有効な薬なので、副作用が極力出ないように注意をしながら上手に付き合っていきましょう。

